

草加八潮消防組合（構成市）の概要

草加市の概要



草加市は、中川、綾瀬川下流域に拓けた東西7.24km、南北7.60km、面積は27.46km²の都市です。市内には、中川、綾瀬川のほかに、伝右川、毛長川、葛西用水など大小さまざまな川が流れ、かつては田園地帯が一面に広がりを見せ、水と緑に恵まれたのどかな風景が見られました。

昭和33年11月1日、県下21番目に市制を施行し、昭和37年、東武伊勢崎線と地下鉄日比谷線の相互乗り入れや、当時東洋一のマンモス団地といわれた松原団地の造成等を経て、昭和43年には県下8番目の10万人都市になりました。東京近郊という立地条件、交通の利便性もあり昭和50年代後半から人口が急激に増加し、平成16年4月には全国40番目の特例市に移行、現在では人口24万8千人を超える都市となっています。

八潮市の概要



八潮市は、中川低地の南端に位置し、東西5.23km、南北7.45km、面積は18.02km²の都市です。市内には、東を中川、西を綾瀬川、南を圀川の一級河川が流れ、古くから河川の恩恵を受けてきました。

昭和31年9月28日、八條村・八幡村・潮止村の三村の頭文字をとって八潮村が誕生しました。都心から20km圏内という地の利もあり、その後の高度経済成長による工場の進出や急激な人口増加により発展を続け、昭和47年1月15日、県下34番目に市制を施行しました。その後も首都高速道路の開通や区画整理事業による都市基盤の整備、平成17年のつくばエクスプレス八潮駅の開業に伴って、現在では人口が9万1千人を超える都市となっています。



人口と世帯数

各年4月1日現在

年	区分	構成市別	人口(人)	男性(人)	女性(人)	世帯数(世帯)
平成21年		草加市	241,670	123,359	118,311	103,792
		八潮市	81,693	42,472	39,221	33,199
平成22年		草加市	242,611	123,754	118,857	105,021
		八潮市	82,440	42,788	39,652	33,856
平成23年		草加市	243,959	124,377	119,582	106,376
		八潮市	82,813	42,939	39,874	34,298
平成24年		草加市	244,026	124,210	119,816	107,093
		八潮市	83,819	43,484	40,335	35,225
平成25年		草加市	243,978	124,034	119,944	107,634
		八潮市	84,224	43,680	40,544	35,793
平成26年		草加市	244,715	124,381	120,334	108,745
		八潮市	84,936	44,052	40,884	36,599
平成27年		草加市	245,481	124,746	120,735	110,053
		八潮市	85,653	44,451	41,202	37,445
平成28年		草加市	246,226	125,176	121,050	111,697
		八潮市	86,294	44,863	41,431	38,366
		合計	332,520	170,039	162,481	150,063
平成29年		草加市	247,481	125,628	121,853	113,620
		八潮市	87,527	45,490	42,037	39,704
		合計	335,008	171,118	163,890	153,324
平成30年		草加市	248,239	125,915	122,324	115,270
		八潮市	89,212	46,354	42,858	41,243
		合計	337,451	172,269	165,182	156,513
平成31年 (令和元年)		草加市	248,813	126,057	122,756	116,862
		八潮市	91,148	47,325	43,823	42,871
		合計	339,961	173,382	166,579	159,733

予算額

各年度当初予算

年度	区分	消防組合予算額(千円)	(参考) 構成市合計一般会計予算額(千円)
平成28年度		3,467,000	98,564,000
平成29年度		3,674,000	102,063,000
平成30年度		3,502,000	104,300,000
平成31年度 (令和元年度)		3,746,325	109,300,000

草加八潮消防組合の沿革

平成31年4月1日現在

◆草加市消防本部		◆八潮市消防本部	
昭和22年 4月	草加消防団発足	昭和31年10月	八潮消防団発足
昭和23年	常備消防設置（消防団本部）		条例定数340名 実員数322名
昭和33年11月	市制施行（草加市）	昭和45年 4月	八潮町消防本部設置
昭和36年 6月	草加市消防本部・消防署設置		条例定数40名 実員数15名
昭和43年4月・10月	西分署開設・消防本部署庁舎完成	昭和45年 5月	八潮町消防署設置
	条例定数82名 実員数71名		消防本部署庁舎完成
昭和54年10月	青柳分署開設	昭和47年 1月	市制施行（八潮市）
平成11年 4月	北分署開設	昭和54年10月	大瀬出張所開設
平成23年 4月	西分署新庁舎完成	平成21年 7月	八潮市消防本部・署新庁舎完成
平成24年 4月	谷塚ステーション開設	平成24年 3月	大瀬出張所閉所（本署統合）
平成25年 4月	草加市及び八潮市消防広域化協議会設置 （会長 田中和明 草加市長 副会長 多田重美 八潮市長）		
平成26年 2月	埼玉県知事から消防広域化重点地域に指定される。		
平成27年 1月	草加市・八潮市広域消防運営計画策定		
平成27年 3月	両市議会において消防の広域化の議決・消防広域化調印式		
平成27年 4月	埼玉県知事から草加八潮消防組合設立許可書が交付される。		
★消防広域化★			
◆草加八潮消防組合			
平成27年10月	草加八潮消防組合設立		
	管理者 田中和明 草加市長、副管理者 大山忍 八潮市長 が就任 執行部職員17名（両市との併任）で消防事務以外の業務を開始 デジタル無線運用開始		
平成28年 2月	第1回組合議会定例会を開催。消防広域化に必要な全53件の議案が議決		
平成28年 3月	草加市消防本部・八潮市消防本部において閉庁式が行われる。		
平成28年 4月	草加八潮消防局発足 消防事務の共同処理を開始		
	条例定数331名 実員数328名		
	初代消防局長に浅井厚紀氏、消防局理事に安藤一明氏が就任 草加八潮消防組合発足記念式典を開催（八潮メセナ 来場者225名）		
平成28年 8月	第45回全国消防救助技術大会（愛媛県松山市）に出場		
	陸上の部 ロープ応用登はん 1チーム 水上の部 複合検索1名 溺者搬送 1チーム		
平成28年11月	高規格救急車を更新（救急草加2号車）		
平成29年 2月	救助工作車Ⅲ型の導入（八潮消防署配備のⅡ型の更新）		
平成29年 4月	条例定数331名 実員数331名		
	予防課を八潮消防署庁舎へ移転		
	高度救助隊を発足し、14名の隊員を八潮消防署に配属		
平成29年10月	司令車を更新（八潮司令車）		

平成29年12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新（青柳1号車）
平成30年 1月	屈折はしご車を更新（八潮はしご車）
平成30年 3月	資機材搬送車の購入（後方支援体制構築のため支援1を八潮署に配備）
平成30年 4月	条例定数331名 実員数331名
	高度救助隊を埼玉県特別機動援助隊（埼玉スマート）に登録
平成30年 5月	「大規模火災発生時の消火用水搬送協力に関する協定」を締結 東関東生コン協同組合
	「災害時における消防活動の協力に関する協定」を締結 草加市建設業振興会・八潮市防災連絡会
平成30年 7月	レスキューボート（草加市防火協会寄贈）を更新（草加署）
	ボートトレーラ二輪を更新（草加署）
平成30年10月	草加市長選挙が執行され、管理者に 浅井昌志 草加市長が就任
平成31年 1月	高規格救急車を更新（救急八潮2号車）
平成31年 4月	条例定数337名 実員数337名